


文・編集・発行 / 斉藤新緑 Tel (0776-82-1141) Fax (0776-82-2261)
【 斉藤新緑事務所】〒913-0001 福井県坂井市三国町池上103-36
【e-mail】sinryoku@aurora.ocn.ne.jp
【ホームページ】http://www.ss.apdw.jp

ほっとらいん

人に、まちに、いま、
元気の種をまこう。

VOL.89

▼メイク・アメリカ・グレイト・アゲイン

私たちの運動は腐敗し失敗した政府に取って変わるうとしています。

アメリカの国民によって管理される新しい政府を確立することが重要です。

ワシントンの組織体制と金融、メディア、企業は自分たちを豊かにし守るための理由だけに存在しています。

ワシントンと力で支配する人々のために、グローバルの特別な関心のために、この選挙に数兆ドルと言う資金を提供してきました。彼らは良心を持たない人々の仲間です。

しかし我々の選挙運動は彼らが以前には見たことがない真の実存的脅威を表します。

この選挙は単にこれからの4年間だけのものではありません。

この選挙は我々の文明の歴史の中でも我々国民が政府の支配に抗議するかどうかの重大な岐路に立っています。

我々を阻止しようとしている政治的な支配階級は大惨事を起こすことを担当しているグループです。

大規模な不法移民と経済、外交政策は我々の血を流し枯渇させ、活力を奪いました。

さらにメキシコや中国、世界

中のあらゆるところに工場を移転させ、我々の製造業と仕事の破壊をもたらしました。

それはグローバルパワーにより意思決定され、仕事で奪われたのです。

大企業や政治的統一体はポケットに労働者階級からお金を搾り取り奪ってきました。

これは我々の生存のための闘争であり、この選挙が国の救いのための最後のチャンスであり、自由の国なのか民主主義だと錯覚しているだけなのかを決定するでしょう。

しかし事実上は特別な操作を小さな一握りのグローバルによってコントロールされています。私たちのシステムが不正操作されています、これが事実です。

あなたも、彼らも、私も、そのことを知っています、世界中の人々も、多くの人が知っています。

クリントンの執行機関がこの力の中心にあることを我々のスタッフは直に見てきました。ウイキリークスの文書はヒラリークリントンが国際的な銀行と秘密裏に世界的な金融の力で

我々の主権の破壊を推し進めています。

彼女の友人や寄贈者は正直に彼女を投獄させるべきです。

クリントンの最も強力な武器は企業メディア報道です。

私たちの国の企業メディアには、すでにジャーナリズムが存在していない事を明らかにしなければなりません。

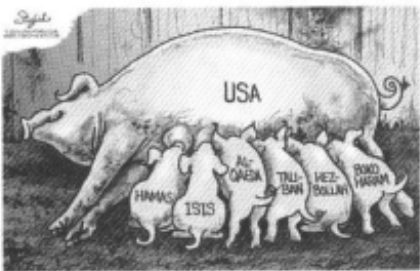
政治的な課題としてはロビイストが実在し政治的路線を協議していると言うことです。この協議はあなたたち国民の為になく、彼ら自身のために協議を行っているのです。

彼らの支配に疑問を呈する人にはだれにでも、人種差別主義者が外国人嫌いであることを隠そうとすると、彼らは嘘、嘘、それでまた嘘を言うでしょう。

彼らは必要となればどんな悪いこともします。クリントン達は犯罪者です。そのことを忘れないで欲しい。

これは証拠文書です。国務省とクリントン財団で広まった犯罪活動を隠そうとしてクリントン達のパワーを維持するためにゲームのように守ってきました。

彼らはあらゆる嘘を投げかけ



することも知っていました。彼らは打ち負かすためなら何でも阻止しようとしたが私と私の家族と私の地位も、しかし彼らは私を止めることができませんでした。

そして私はあなたの方のために喜んでこれらの全ての投石と矢を受け止めます。

私は我々の活動のためにそれらを受け止めて私たちの国を取り戻すことができるようにします。

そして私はアメリカの人々がそれを超えてくることを知っていました。

そして価値ある将来のために投票しなさい。私達と国家の為にこの壊れたマシンを停止することができるのはあなた達です。

私たちの国を救うために十分な強い力を持っています。この腐敗した組織に投票で止めさせる勇氣ある人々があなたです。

アメリカの人々は我々の偉大な文明の審判の瞬間に来ています。

私は、愛するアメリカの人々のために、この運動のために、そしてあなたの方のためにこの国を取り戻すでしょう。

私たちは再びアメリカを偉大な国にしましょう。

▼1%支配からの脱却

少数の人々(1%)が利益を得るために、他のすべての人(99%)を犠牲にする戦争のようなものだ。

アメリカ貧困層の怒り、絶望は、いかなるメディアにもだまされなくなっていた。

1%の利益のために、アメリカを支配し、日本を支配し、危機をあり、世界に戦争を仕掛け、金融をバクテ化し、新自由主義、市場原理主義の名の下に、グローバル化、弱肉強食、格差社会を推し進め、国民国家を解体し、政治やメディアを操る社会に、アメリカ国民がノーを示した。

危うく、TPP合衆国の一員となつて、日本の国家主権がなくなる危機、第三次世界大戦勃発の危機が、トランプ勝利で回避できる期待が持てる。

世界を不幸にする1%、悪の世界権力構造がほころび始めた。希望を捨ててはならない。

県会自民党 会派結成趣意書

グローバル化の波に国が飲み込まれようとする時代の中で、時の流れに身を任せていけば、地方は生活基盤を奪われ、衰退の一途をたどることは必至です。

いかに故郷を守り、未来へと繋げていくのか、この根本が地方議会人としての普遍的、かつ喫緊の重要な任務であります。

目先の対処療法的な手段・手法に目を奪われ、大局感を失えば未来を見通すことはできません。

知事の招集によって、開催される年4回の定例議会は、行政の縦割り、部局別課別提案の範囲で、「行政の手の平」の論議ならざるを得ません。

そうしたレベルを超え、大局的な情勢分析を踏まえた根本的な地方創生政策を柱に据えなければなりません。

自然と風土に培われた故郷に根付いた「瑞穂の国の資本主義」を大切にし、私たち議会人が主催する「議会」とするために、議会主導の県民提案創生ものへと速やかに行動を開始しましょう。

老・壮・青、相互の役割と任務を果たす、強力な政策集団として、「分厚く寛容な保守」会派として、ここに福井県議会会派「県会自民党」を結成する。

平成28年8月28日

県民の最終意思決定機関としての責任

▼議会は何をしていたのか

築地市場の豊洲新市場の移転、施設建設問題、東京オリピック競技会場をめぐる問題など東京都、小池知事誕生と相まって、マスコミによつて、連日、報道されています。

当時の石原知事をはじめ東京都政執行部に対する責任追及、犯人探しにまで及んでいます。一方において、チエック機関としてある東京都議会は何をしていたのか、権力を批判検証すべきジャーナリズムである記者クラブは何をしていたのか、その機能を果たしていないことに対する批判が相次いでいます。

もちろん、小池百合子知事の人氣に便乗して、小池知事ブレイブのごとく無批判であることも批判されることになるでしょう。

▼二つの機関

国会は、選挙で選ばれた国会議員の中から、総理大臣を選出し、内閣を形成する議院内閣制であるのに対し、地方自治は、予算など提案権を持つ首長とその是非を判断する住民の最終的意思決定機関としての議会（議員が各々選挙で選ばれるという二つの役割の違う独立機関によって構成されています。その性格は、首長は一人の独人

機関であり、議会は複数から構成される合議制の機関です。つまり、首長は、一人の意思であり、議会は構成員の過半数をもって意思となります。

▼車の両輪

よく首長と議会は車の両輪という言葉が使用されます。しかし、これは、対等な関係を表現しているようであり、「運転手は僕だ」と言うて、首長の意思に従うタイヤを指している都合のよい言葉でもあります。議会は、独立機関であり、行政機関の中に配置された「議会部」ではありません。

行政は、その仕事をするために専門の職員が多数いますが、議会は首長が人事異動で配置した事務局職員がいるだけです。提案の是非を判断する能力を身につけておかねば、提案理由を盲目的に信じ、提案議案を唯々諾々と承認するだけの機関になりさうり、本来の機能を果たすことはできません。

▼批判的検証能力

首長が提案する内容はもともとの理由をつけて出てきますが、果たして、それは本当か、正しいのか、ふさわしいのか、どこまで吟味されているのか、それより他にすべきことがあるのではないかと、同じ予算を使うなら、もっと価値あるものがあるのではないかと、など批判的に検証する能力が議会人には求められます。

右肩下がりの時代の中で、将来を見据え、何を優先課題とし、何に予算をつけるべきか、予算の提案者である首長にお任せし、それを承認するだけの機関に成り下がるのではなく、議員自ら首長になつたつもりで考え、議案審議し、提案する議会をめぐさなければなりません。

▼ノーといえない議会

本来、議会は、何のためにあるのかといえ、一言で言えば、「あかんものはあかん、いらんものはいらん」というためにあります。提案された議案は何でも承認するだけの機関であれば、本来の議会の機能を果たしておらず、存在意義がありません。

右肩下がりの時代で、予算に困らない時代であれば、「あれもこれも」も可能でした。もちろん、この予算に余裕のあった時代の大盤振舞いが、今、悲鳴をあげる原因となっています。

その度に、「これはおかしい」ということになるのですが、威勢の良いのは始めだけで、最後の議決段階になると「ふにやぶ

県会自民党が予算修正案

西川県政に警鐘



ジグソーパズルのように 全体構想を描いてピースを当てはめよ

にや」となると、付帯決議（条件つき賛成）で、お茶を濁すようなものになってしまいます。

それは何故かといえば、議案に反対すると首長に対する不信任を意味すると言われ、首長の「反目」と見られ、地元の前算がつかなくなるか、その結果、自分の次の選挙が危うくなるか、という自己保身になる、あるいは、首長に好かれ、「側近となれば、無理難題の有権者の要望をかなえてもらえ」という側面があるからです。

そうならば、議員は、どちらがどれだけ首長に好かれているかといった、「ゴマスリ大会」となりま

す。議案が、そうなってしまうと、首長は気楽なもので、提案する議案は、議会はノーと言えないのだから、何でも通る、提案してしまえば「こっちの勝ち」とばかりに、好き放題となります。

役所には、優秀な職員もおりますが、それこそ首長の命令、指示には逆らえず、異を唱え、首長に

嫌われれば、仕事ができないという立場であり、器量のない首長の元では、首長に耳障りの良いイスマンばかりが、首長の周りを固めることとなります。

もちろん、見識も能力も器量もある首長という前提ならばそれでも良いのですが、独善的であったり、妙なコンプレックスを持っていたり、自己保身に固まって、次の選挙のことしか頭になく、優柔不断で足して二で割るようなことをやめて始末に困るような首長が出てきた場合、「ノー」というためにある議案が機能しないとすれば、何の歯止めもなく、大変なことになります。

住民の最終意思決定機関である議案が「ノーと言えない議案」で、良い街づくりはできません。ダメなものダメ、「ノー」というためにある機関で議案ですから、平然と「ノー」といえるはずですが、前記した要素もあり、「ノー」というには、相当の覚悟と勇気が必要とするのが現状です。

逆に「イスマ」というのは、どこからも抵抗はなく、自分の懐が痛むわけではありませんから気楽です。

しかし、自分のお金で家を立てる場合を想定すれば、値段の交渉から、デザインや機能性など、どれだけ時間がかかっても納得できるものにします。

▼ノーといえる議会

議会とは、繰り返しになります。複数の議員によって構成される合議制によるもので、議会の意思とは、その過半数をもたねばなりません。

議会は、思想信条を共有する者、仲間によって会派が構成されます。その多数を占める会派の意思が重要となります。

私たちは、8月末、前記した会派結成趣意書に基づき、新しい会派「県会自民党を結成しました。

その結果、当初、予想もなかったしなかった20名もの議員が

結果するところとなり、県議会議員37名の過半数を占める最大会派となりました。

文字通り、県民の最終意思決定機関である県議会の意思を決定する責任会派となりました。おまけに、私はその会長に選出され、「矢面に立つ」重責を担うことになりました。

▼何を議論させられているのか

結成まもなく9月定例県議会が開催され、私は、アンカーとして質問に立ち、「私たちは何を議論させられているのか」を問いました。

ジグソーパズルは、最初に「絵」があつて、それを細かく刻んだものがピース（欠片）です。時間はかかっても、はめこんでいけば、絵は完成されます。

しかし、絵がないままに、ピースを貼り付けても、永久に絵になりません。目の下に眉毛があたり、口が二つあつたりと、どれだけ予算を使っても「福笑い」のような街にしかありません。

全体構想を示さず、或いは全体構想を持たないまま部品でしかないピースの予算を提案されても、何を意図したのか、是非の判断ができず、議論できません。

突然、単発に「牛乳という予算が出てきても、どこのメーカーで賞味期限切れではないか、確認する程度です。それで、特に反対する理由もないので議案に賛成します。

このようにして、単品の予算を認めていくと、テーブル全体は、漬物に牛乳といったバラバラのものになります。

全体の献立、メニューがあつて、はじめて、「牛乳がいいのか」「お茶がよいのか、何から料理を運ぶのか、の議論が出来ます。

まず、はじめに絵があることが大事です。

絵があつて、どんな部品にするのかが決まるのであり、部品である個別の箱物（建物）だけを提案されても本来、議論のしようがないのです。

しかし、今日の福井県の惨状を見てみると単品単独主義だつたといわざるをえません。

そういう議論のさせられ方を容認してきた県議会も批判されます。反省に立って、9月議会に臨みました。

58年ぶりとなった議案修正

議案の否決と修正の違い

予算議案は、他の議案と違って、部局別事業別予算として、農林・土木・福祉・教育などすべて一括して提案されます。議案を否決すれば全ての予算を認めないことになります。議案修正は、その中で問題のある事業だけを認めないとして予算額をゼロにしたり、減額したり、増額したりするものです。従って、本来、議会が本気で審議すれば、予算議案の修正などは日常茶飯事といって良いものです。

しかし、そうした議会の任務を長く果たさないと、議案の修正をするという、何か異常事態で、知事と対立しているとか不信任だとか、という見方がされます。福井県議会では58年ぶりと言いますから、さぞ、驚かれた方もおられるかもしれません。では、なぜ、これまで、してこなかったのかといえ、議員自身が「議案を修正することができない」ことを、そもそも知らなかったり、修正議案の作り方を知らなくて、できなかった、或いは、議案を修正しようというだけの議員がいなかった、いても少数だったなどが考えられます。

今回、たまたま納得できない議案があったため、淡々と議案修正を行いました。改めて、「こんなことが出来るとは思わなかった」という議員や「議案で、それだけの力（権限）があるんですね」、「もっと、いらんものはいらん、あかんものはあかん」という一般の方の声を聞かせていただくことになりました。

今回、「議案修正」を行ったことにより、提案権を持つ知事と議決権（否決修正権）を持つ議会との関係が明らかになったといえます。議案が提案されれば、何でも通す「ノー」と言えない議会として、甘く見られていた議会がピリツとすると、知事はじめ県庁も緊張感を持つて良い仕事をしてくれることと思います。

その面で、新会派を構成して、わずか一ヶ月余りで、多少、バタつきはしたものの、文句はいつても議案を通してきた従来の議会の壁、閉塞感を打ち破れたことは、一つの成果であり、今後の議会活動の布石となっていくものと思います。

議案の何が問題だったのか

▼9月定例会における減額修正・附帯決議の概要

1 「ふるさと納税1兆円」国民運動事業

【知事提案】ふるさと納税を大きく育てるため、福井県が働きかけた13県でつくる「ふるさと知事ネットワーク」で、寄付額1兆円を目指す運動を展開する事業。

補正予算の内容
・福井県が、ふるさと納税で優れた活動をしている自治体を表彰する。

・福井県が、ふるさと納税を紹介している優良サイトの認証制度をつくる
(予算額・3億6千万円)

【原案の問題点】

①ふるさと納税制度は、国の制度である。
このため、制度の普及を推進したり、制度が正しく運用され

る責任を担っているのは国である。

福井県の寄付を増やすためのPRであれば、県民の理解も得られるが、9月補正予算の内容は、

「ふるさと納税で優れた活動をしている自治体を表彰する」、「ふるさと納税を紹介している優良サイトの認証制度をつくる」など、全

国の普及や制度の正しい運用を図るための事業であり、県民の税金を投入してまで実施する必要はない。

必要ならば、国がすべきであり、表彰される側も国の表彰の方が値打ちがある。

県民に全く関係のない活動に県の予算を使うことは、正しい行政のあり方とは言えない。

②事業名から受ける印象は、ふるさと納税「1兆円」の目標値が一人歩きしている。

現在、ふるさと納税をしているのは納税者の2%程度であるが、これが50%になれば、このぐらいの金額になるといえるので、その達成根拠に乏しく、仮に全国規模で金額が増えたとしても福井のふるさと納税額が増えるとは限らない。

①補正予算で計上する緊急性、性格のものではない。まずは、大河ドラマ誘致失敗の総括をすべきである。

②鹿兒島、山口、高知、佐賀(薩長・土・肥)は昨年、平成30年に向けての広域観光連携の発表しており、福井県はこれに乗り遅れないように150周年事業を展開していくことだが、明治維新といえば「薩長土肥」が主役であり、そもそも明治

【審議結果】
減額修正(予算削除)
2 幕末明治福井150年博(仮称)開催準備事業

【知事提案】
幕末明治150年の節目となる平成30年に、「幕末明治福井150年博」を開催するため、実施計画の策定や機運醸成のためのイベントを実施(予算額6百145千円)

【原案の問題点】
・幕末明治150年の節目となる平成30年に、幕末明治で活躍した「由利公正」を題材にしたNHK大河ドラマ誘致事業が失敗に終わったことへのケジメもつけずに、新規事業として「幕末明治福井150年博」の開催事業が提案された。

※ふるさと納税とは、好きな地域(都道府県・市区町村)への寄附のことを言います。寄附をすると、税金が控除されたり、寄附金の使い道を指定して地域を応援できたり、さらには寄附した地域からお礼の品として美味しいお肉やお魚などがもらえることがあります。寄附の仕方は通販などと一緒で簡単です。

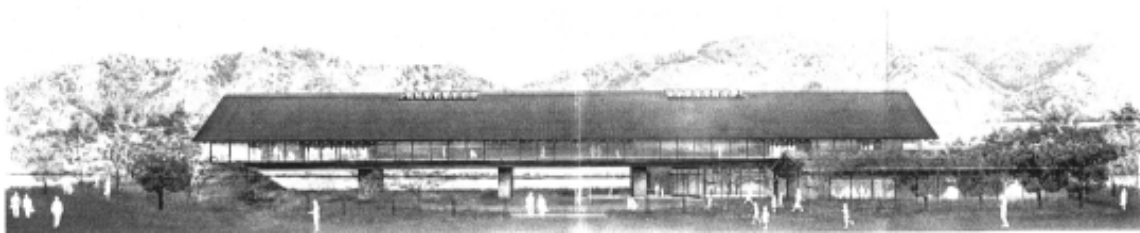
例えば年収600万円の方は、ふるさと納税を活用しない場合は65,000円の税金を払うところ、ふるさと納税で65,000円を寄附することで、税金から63,000円の還付もしくは控除がされ、さらにお米や和牛などのお礼の品がもらえることがあります。

維新の記念事業を福井県が実施する理由がわからない。
単に、福井がこの4県の応援団となり、結果としてこの4県の誘客キャンペーンに協力する役目だけを果たしてしまう恐れがある。
幕末をキーワードにした福井の売り込みをじっくりと再考する時期である。

③幕末の福井県は、福井藩の松平春嶽が公武合体派の中心人物であったことから、明治維新を称賛するような捉え方をすることに疑問を感じる。
「勝てば官軍」の歴史を私たちは刷り込まれている。
明治維新とは何だったのか、徳川政権のまま明治時代を迎えていたら日本はどうだったのか、明治維新に対する幅広い議論が必要である。

ねんこう年縞とは

湖底などの堆積物によってできた縞模様のことです。福井県にある水月湖の底には、7年以上の歳月をかけて積み重なった年縞があり、考古学や地質学における年代測定の「世界標準ものさし」に採用されました。



年縞研究展示施設の外觀イメージ

④幕末明治の偉人の功績を讃えたいのであれば、明治維新から150年の年（平成年）、国体にごだわる必要はない。

【審議結果】 減額修正（予算削除）

3 「年縞」活用推進事業

年縞研究展示施設の整備

【整備概要】

- ・7万年分の歴史を刻む水月湖年縞45mを直線的に展示
- ・平成30年度開館予定
- ・総事業費 14億8千万円

三方五湖、水月湖「年縞」を教育・観光に活用するための年縞研究展示施設について、実施設計に基づいた建築工事に着手する。

9月補正予算額・

9千8百856千円

【原案の問題点】

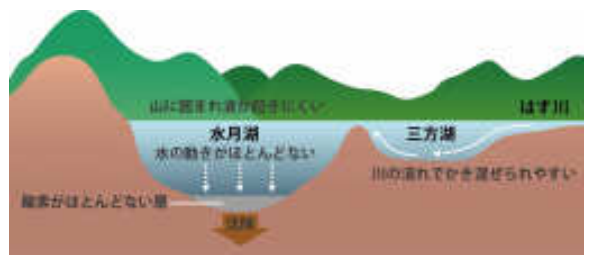
①グランドデザインがないまま、国体開催に間に合わせることで先行してきた。

若狭町立の縄文博物館など、入館者が少なく、町財政を圧迫し、お荷物になっている。

類似施設であり、典型的な箱物行政である。極めてミニマム、趣味的な要素が加わった「自然保護課」の学者を中心とした領域でしか考えておらず、地元が望む誰もが観光起爆剤にはならない。

まず、リピーターは期待できない。将来、ほこりをかぶったお荷物施設になることが懸念される。

観光誘客を図るためには施設そのものの娯楽性が必要である。エリア全体の将来展望、全体計画等が示すべき。



設そのものの娯楽性が必要である。エリア全体の将来展望、全体計画等が示すべき。

【原案の問題点】

②国内はもとより、世界でも貴重な「年縞」ということであれば、国立博物館、あるいはそれに準ずる国費が投入されてしかるべきだが、総額14億円の大半を県費で対応することについて疑問があった。

県は、一貫して、「年縞」は複数省庁にまたがっており、施設整備に国の助成制度はないとの答弁を繰り返したが、私が質問に当たって調査した結果、文化庁に「年縞」担当者について、窓口省庁があること、天然記念物指定を受ければ、施設整備に補助率50%の支援事業があることが判明した。

天然記念物指定申請すら、行われていない現状にあり、早急に手続きをし、国の財源確保を行う必要がある。

国は水月湖の年縞をどのように位置づけ、対応しようとしているのか、県は国にどのよう要請しているのか、県選出国会議員などへ働きかけているのか、対応が不十分である。

③建設予定地は、水月湖年縞といえながら、三方湖に建設される。



若狭町立縄文博物館

この地には、年縞展示場もある縄文博物館、縄文プラザなど、当初の見通しとは違い経営難となっていて、県に取得し設計のコンセプトが同じ船小屋。類似施設を並べても意味がない。町営県営を度外視して、総合的に考えるべき。

④維持管理費は、どれくらいかかるか。施設の維持管理のための

ランニングコスト、人件費などの経費と入館料、入館者数など收支見通しについて、明確な資料が提示されていない。

⑤里地里湖研究所がなにをしているかわからない。それが地域に何の貢献をするのか、県民理解が得られていない。

今一度、将来的にも地域が活きる構想をしっかりと描くこと。平成30年の国体間に合わせることを理由とした拙速な対応は将来禍根を招く。

【審議結果】
附帯決議

1 本計画施設および周辺の県ならびに町有施設について、事業の効率化と事業効果が最大限に発揮されるよう協議を経て、県と町が総合的に管理運営すること。

2 年縞研究展示施設の整備にあたっては、早急に全体計画を策定し研究機関としての位置づけのみならず、嶺南地域活性化の起爆剤となるよう観光資源化すること。

3 「年縞」の天然記念物指定申請を早期に行うとともに、研究展示施設の整備にかかる国の補助金等を積極的に活用すること。

4 六呂師高原スキー体験施設の指定管理について
六呂師高原スキー体験施設（当初予算1億1千2百861千円）

【知事提案】
指定管理者の指定

（1）施設名称 福井県六呂師高原スキー体験施設
（2）指定管理者 大野市
（3）指定期間
平成28年12月20日〜平成33年3月31日

【原案の問題点】

①六呂師高原スキー体験施設の整備については、当初予算で、子供用の簡易式ロープを使用した（Tバーリフト）計画として提案されたもので、その程度のもので、ということ、議案を承認した。

しかし、いつの間にか、当初予算で承認した当初計画から整備面積や内容が大きく変更されており、議会の承認を得ていない。

なぜ、当初の計画を見直さざるをえなかったのか、聞けば、当時の議長から、「頂上部は傾斜がきつく、危険で、事故があれば県の責任問題になるのでは」との指摘があり、下半分だけにした。

また、「スキー人口が減少する中で、経営は成り立つのか」といわれ、「夏スキーを計画した」の返答。

当初計画そのものが、あまりにずさんだったのではないか。

②奥越には現在、4か所のスキー場の運営がなされている。どこも経営が厳しい上に、新しくスキー場をつくる事になると共倒れの事態に陥ることは明らか。

スキー人口の増加が見込めない中、なぜこの時期に税金を投入して公共事業でスキー場を整備する根拠は、成り立つのか。

1時間圏内（岐阜県に、人工スキー場があり、オールシーズンの需要が見込めない。収支見通しも示さぬまま、市に運営させる事は無責任ではないか。大野市の財政負担が膨らむことは明らかであり、開発行為をした県の責任を問われる事

は明らか。

③2期整備エリアとか、夏スキー整備エリアとか、六呂師高原スキーエリアイメージ図にあるが、それらが何か既定の整備方針（案のように記載されている。

今回の計画変更の手続きも同様だが、説明することや願望のべることをもって、議会の承認を得たかのような、曖昧なことをしてはならない。

2期整備、夏スキー整備をしたいのであれば、全体構想として、投資額と費用対効果、収支見通しを示すべきだ。

その上で、全体を誰が管理運営するのか決めるべきだ。その場合、指定管理者は大野市だけでなく、公募によって決めるべきだ。

④かつて、民間が運営に失敗したスキー施設を、県や市と行った行政が運営できると思えない。

ない。そもそも六呂師活性化なら、なぜスキー場にこだわるのか。

三重県の「なばなの里」や岐阜県のひるがの高原の「牧歌の里」のような多く集客している施設を参考にすることも必要でないか。

【審議結果】
附帯決議

【考え方】

・これまでの経緯を踏まえ、より効果的に事業を進めるため、次の付帯決議を付した。

一本議案の指定管理者の指定については、『六呂師高原スポーツ・体験観光促進事業』の所期の目的達成と管理者に過度な負担を強いることのないよう十分に考慮すること。また、指定管理の開始までに事業の全体計画と収支見通しを議会に示すこと。」



政務活動費について

「号泣議員」こと野々村元兵庫県議会議員詐欺罪で有罪の騒動や白紙領収書を使って架空請求を繰り返すなどして議員辞職（ミソ）となった富山市議会の問題で、またも「政務活動費がやり玉に上がっています。」

これらは、政務活動費をしていないのに、政務活動費を受給した悪質な詐欺事件です。

地方自治法では、政務活動費の使途について「議員の調査研究その他の活動に資するための経費の一部」と定められています。

主な内訳としては、事務所費やスタッフの人件費、会報の発行やホームページの運営にかかる広報費などがあげられています。

金額は議会ごとに定められており、月額では、東京都の60万円を筆頭に、全国平均35万円程度、最も多いのが30万円、福井県も同様です。

▼福井県議会の政務活動費に

ついては、2007年、私が自民党新幹会幹事長だった時、一円以上の領収書を義務付け、これまで非公認であった政務調査費の全面公開に踏み切りました。その後、議会改革検討会議で、福井県庁の旅費規程を採用するなどの政務調査費規定マニュアルを作成しました。

当時、なぜ福井県議会だけが、こんなことだけ先行するのか、日本一の厳しい規定ではないかと、随分叱られたことを思い出します。

以後、それに基づき申請を行い、議会事務局がそれをチェックする体制となっています。1995回にも上る「領収書なし」「詳細報告なしの視察を繰り返した、野々村事件など起きるはずがないのです。

▼このような事態が発生すれば、「議員はこんなヤツらばかりだ」と一色単に見られまくる。自分のことを申し上げるのは恐縮だが、私は政務活動費など

なかった町議会時代から、今日まで議会活動のスタイルは何も変わっていません。

政務活動費があるから、使わなければならないと、政務活動をしていないではありません。

多額の活動費のうち、支給規定に該当するものを申請し、受理されたものが支給されています。

▼今回、富山の問題もあってか、福井県議会の政務活動費が新聞紙上で報じられました。

個人名を出して、中には犯罪者のごとく顔写真入りで掲載されたものもあり、何か悪いことをしたようなイメージを持たれたという怒り心頭の議員の声も聞いていますが、すべて規定に基づいて請求し、そのチェックを受けているもので、名指される問題はありません。

ただ、若干一名は、交通費が別の団体からも出ていたことに気づかず請求しており、その分を返還しました。

▼「せっかく議会議案が頑張る、議案修正をし、本来のチェック機能を果たしたのに、何か悪いことでもしたかのような記事が書かれるのはおかしい」、「議案修正したあと、政務活動費で、県会自民党ばかり名前が出るのはなぜですか」、「さも悪いことをしているような記事は議会たたきですか」、「なぜこのタイミングなのですか」、「知事のことばなぜ書かないのですか」など、新聞報道についての疑問の声が事務所に届くのだが、そればかりは、新聞社に聞いてくれとしか答えようがありません。

「政務活動費」を短縮して「政治費」、「議員の政治費」といえば、確かに「議員の生活費」をイメージさせます。

孫への手紙 (7)

あとみよそわか

おはよう、と言っても今は午前4時。まだ、夢の中かも知れませんか。

爺は60歳になり、その時開かれた還暦祝いのパーティーでは、花束贈呈に出てくれてありがとう。

マイクを向けられたら、神妙な顔になって口を結んでしまったので、「ジイおめでと」が聞かれなかったのは残念だったけど、さすがに、緊張したのかも知れません。

でも、最近、「こわい」という言葉を覚えて、お気に入りなのか、連発し、爺の顔を見ても「こわい」といって、爺を傷つけているので、婆は、あの場と言ったらどうしようかと、心配していたようです。

60歳になったら、時間的に余裕を持って、ゆつくり遊んであげようと思っていたのですが、逆に、滅茶苦茶忙しくなつて、なかなかお話できなくなつてしまいました。

先日、風邪気味だったので、早く帰宅し、布団に入ったら、久々に爺の部屋に入ってきたので、「爺と一緒にねんねするか？」と誘ったら、「ねんねしないの。バイバイ」と逃げていつてしまつて、爺は悲しみに打ちひしがれてしまいました。

言葉を覚え、物言いがはつきりしてくると、爺は、世界残酷物語のような気分になります。でも、婆は焼酎なんぞでむせたりせず、グイグイやつて寝てしまふから心配ないか。

夫に先立たれた女の人の歌です。婆にそんな歌を歌わせないように、爺も健康に注意しようとは思うのですが…。

いつぱいあつたサルスベリや桜や樺の葉っぱを落とし、冬支度をはじめました。まわりの景色や雰囲気から、冬の近づいた気配が感じられる晩秋のこのころを冬隣といひます。

爺の好きな歌に、「ちあきなた。いつの時代に見た光景なの

か、最近見たことがありませんでした。

しつけによつて、こんなふうに着たんだとお母さんの顔を見てしまいました。

▼あとみよそわか

女の子の手馴れたテーブル拭きの姿を見て、思い出したのは、明治の文豪 幸田露伴と娘 幸田文のことです。

父は幼い頃に生母を亡くし、父露伴は後添えをむかえたが、継母は学はあるが、家事・躰けには無放任な人であったため、父露伴が娘文に家事一般の躰けを教え込んだ。

掃除の勉強第一日目は、掃除道具を整える事から始まった。曲がった箒の穂先を水につけて真っ直ぐにし、掃き目のいろはを習う。

はたきに到つては、一から道具を作ることから習う。いわく、はたきの房は和紙の原稿用紙の書き損なつた反古紙で作る。短く軽く。

「弘法筆をえらばず」は、愚説であつて「名工はその器をよくす」が確かなところだと習う。

はしご段は一段一段あがるものだから、一段も三段もまたぐことは無理と、その日の稽古は終了。

父に「ありがと」をいましてとお辞儀をしてさがるうとする「あとみよそわか」と声がかかる。

娘が振り返ると「女はこみっばいもんだから、もういいと思つてからももう一度よく、呪文をと覚えて見るんだ」と父は云つた。

「あとみよそわか」の呪文の意味は、「あとみよ」は「後を見よ」「そわか」は「蘇婆訶」と書き、仏教の言葉で意味は「円満」「成就」。「般若心経」の最後から二行目の「菩提薩婆訶(ぼつじそわか)」から来ているものだと言ふ。

ものが成る時(成就)、人の去り際(亡くなる時)、何かから境遇を脱する時、その際を振り返り「あとみよそわか、あとみよそわか」と呪文に唱えて、

物事の成るを願う。成るか成らぬかの是非を心に留めるように、振り返れと云うことらしい。

障子の扱いが上手く出来ないでいると、「ふむ、おこつたな、できもしない癖におこるやつを慢心外道」と叱咤される。

糊を煮て、あまり固過ぎてはいけないと、小言を言われる前に気をきかせて水を入れてかき混ぜ、かえつてぶつぶつのあるダマにしてしまうと、「余計な自分料簡を出してサル(猿)をやつたのは、孔子様のおっしゃつた退いて学ぶに如かず」という訓えをないがしろにするものだ」とやつつけられる。

母の無い子は父に見棄てられるのが辛い。稽古の厳しさに腹を立て、泣く、愚図る、歯を剥くことはあつても、自分からダメになつてぐちゃぐちゃと崩れ折れることはしなかつたと云う。

娘が離婚して家に戻ると、鋤鋤持たせて農業をさせ、ついに肥え桶担がせ、庭に端正な菊を育てるに到る。

幸田文の随筆「父・こんなこと」は、そうした事柄の書かれた、清々しい本です。本が読めるようになったら、是非読んでみてください。

日常生活の中の平凡な「掃除」という家事にも気持ちを入れ込め、掃除だけに留まらず、我々が取る一つひとつの行動に常に自分が納得いくように心を配っているかを確認するための深い言葉です。

脱いだ靴は揃える、開けた扉は閉める、使つたものは元に戻す…

当たり前のこともかもしれないけれど、もつともつと今までの以上に一つひとつの動きに責任を持つて生きることは大事です。

あとみよそわか あとみよそわか

爺が躰けることはできませんが、何よりも身の回りのことを自分でできるように、呪文を覚えておいて下さい。寒くなるから、家に帰つたらうがいして、風邪に気を付けて下さい。



風に吹かれて

ボブ・デイルン

どれほどの道を歩かねばならぬのか
男と呼ばれるために
どれほど鳩は飛び続けねばならぬのか
砂の上で安らげるために
どれほどの弾がうたれねばならぬのか
殺戮をやめさせるために
その答えは 風に吹かれて
誰にもつかめない

どれほど悠久の世紀が流れるのか
山が海となるには
どれほど人は生きねばならぬのか
ほんとは自由になれるために
どれほど首をかしげねばならぬのか
何もみたくないというために
その答えは 風に吹かれて
誰にもつかめない

どれほど人は見上げねばならぬのか
ほんとの空をみるために
どれほど多くの耳を持たねばならぬのか
他人の叫びを聞けるために
どれほど多くの人が死なねばならぬのか
死が無益だと知るために
その答えは 風に吹かれて
誰にもつかめない

▼「日残して昏るるに未だ遠し」

藤沢周平に「三屋清左衛門残日録」という小説がある。

家督を譲って隠居した三屋清左衛門が残日録と言う日記を書き始める。

「残日録」とは「後何日生きるか」と言う消極的なものでない。

本人は俗世から一歩引いたつもりであるが、藩内の対立や、若いころの親友たちのその後、料亭の女将との淡い恋模様、子どもや嫁たちの厚情などが描かれる。

私の見る唯一のテレビ番組、「時代劇専門チャンネル」では、老いゆく日々の命のかがやき、いぶし銀にも似た三屋清左衛門役を北大路欣也が好演していた。

60を過ぎたら「余白の人生」、「人生下り坂ラクチンラクチン」などと言う人もいて、三屋清左衛門のような隠居生活にあらがれてきた。

内心、一つずつ役を降りて、身軽になっていこうと思っっているのに、現実はまだならぬもので、会派の会長たるの自民党福井県連の幹事長になつたりと、これ以上の重責はないというほどの役を背負うことになり、「矢面に立つ」、「役目を果たす」などという言葉が身にしみる。

何でこうなるの？と思わず愚痴の一つも口に出せば、「成りたくても出来ない人がいるのだから」と諭される。

▼「人間には持ち時間があるというのを若いうちから知っておくべきだ」

池波正太郎の原作で、中村吉衛門の「鬼平犯科帳」、藤田まことの「剣客商売」といった番組があると楽しくなる。

「それは、この次郎長の男が足らねえからだ」

松平健が扮する清水の次郎長のセリフにしびれたりするのは、単に古臭い人間だけなのだろうか。

▼人、死を憎まば、生を愛すべし。

存命の喜び、日々を楽しまざらんや。

愚かなる人、この樂しびを忘れて、いたづらはしく他の樂しびを求め、この財を忘れて、危く他の財を貪るには、志満つ事なし。

生ける間、生を樂しまずして、死に臨みて死を恐れば、この理あるべからず。
(兼好法師『徒然草』第九十三段)

還暦の同窓会も相次いで開催されたが、冒頭には、亡

新緑の気ままにトク

くなられた同級生と担任の先生の「冥福を祈る」。

満六十歳まで生きてこれたことを何ともあれ感謝しなければならぬ。

還暦とは、振り出しに戻って、ゼロからのスタート。赤ちゃんと戻るという意味での「赤いチャンチャン」らしいが、私も後援会に盛大な還暦パーティを開いていただき、めでたくそれを着せていただいた。

「早く隠居がしたい」「静かに生きたい」という心の内を見透かされたのか、そうはさせないとはかりに、「男儲から」、などと更なる奮闘努力を促された。

「ひとつをうしなうことなしに別個の風景にはいつてゆけない。大きな喪失にたえてのみ

あたらしい世界がひらける。」

真壁仁に峠という詩がある。旅人は、峠に立つと、来た道を振り返り、これから行く道の前に、立ち止まり、摘み草をしたり、立小便をしてみたりする。

「饑の言葉」というのは、昔は馬で旅をしたので、旅立ちをためらう人の馬の鼻をそと行く先に向けて旅立たせる意味だという。

私の人生の持ち時間は、あとどれくらいあるのだろうか、私の父は61歳で死んだのだが、しかし、そればかりはわからない、明日は明日の風が吹く。私一人、どれだけ頑張っても、世界支配者の競争ビジネスは止められない。日本の対米自立はかなわない。

そう思っ、ボブデイルンの「風に吹かれて」を口ずさめば、何とノーベル文学賞を受賞するというニュース、そしてトランプが勝った。

シャバ、捨てたものではない。世界権力地図が変わり、戦争をなくすために動き出した。日本独立のチャンス到来なのだが：良い風が吹いてきたように思える。

▼「華甲」と言う言葉があることを、茶道、遠州流の家元、小堀宗実氏の祝賀会に招待され、初めて知った。

「華」という字は、十が六つあつて、六十を表し、「甲」は甲の子が十千十二支のスタートなので、一を表す。つまり「華甲」とは、六十のことで、数え年六十一、還暦のこと。格式のある世界では言葉も違うのかと思つた。

家元と同じテーブルで、私たちは同い年だと親しくさせていただきました。

しかし、こんな時である、焦りを感じるのには、六十になつても知らないことばかり、やらねばならないことがいっぱいある。

馬齢を重ねて六十年。一体何をやってきたのか。季節は冬隣、晩秋。

「一葉落ちて天下の秋を知る」、節目の年を迎え、自らの秋を知る。

うしろ姿のしぐれていくか時節柄 どなた様もご自愛ください。

